

平成27年度独立行政法人国立美術館年度計画

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置

1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

(1) 多様な鑑賞機会の提供

①-1 国立美術館は、利用者のニーズ、研究成果を踏まえ、各館の特色を活かした所蔵作品展を小企画展・テーマ展として行うものを含め開催する。企画展では、メディアアート等の先端的な展覧会やアジアに目を向けた展覧会、作家・作品の再発見・再評価、海外の美術館との連携協力により世界の美術の紹介を目指した展覧会を開催する。

映画については、保存・復元成果の活用と、内外の同種機関や関連団体との積極的な連携を通して、作家や時代、国やジャンル等様々な切り口による上映会・展覧会をバランスよく実施し、多様な鑑賞機会の提供を図る。

また、入館者に対するアンケート調査を行い、そのニーズや満足度を分析し、結果を展覧会事業等に反映させるとともに、各館のホームページをはじめ、インターネットを活用した展覧会事業等の広報により一層努める。

各館では以下の方針に基づき、別表1の展覧会等を開催する。

(東京国立近代美術館)

<本館>

所蔵作品展では、平成24年度のリニューアルの成果を活かし、引き続き特集展示や多言語による掲出解説文の充実に努める。主な特集展示としては、平成25年度、平成26年度に続くシリーズ「何かがおこってるⅢ(仮称)」「東北を思うⅤ(仮称)」を夏に、「藤田嗣治全点展示(仮称)」を秋に、建築写真を活用した「美術と建築(仮称)」を冬に、それぞれ開催する。また、ギャラリー4においては、「コレクションによる小企画」を2回実施する。

企画展では、日本画界の異才ともいわれる片岡球子の実像に迫る個展、各館の研究員が連携・協力して法人の全コレクションから選りすぐった作品を集める5館合同展、1960-70年代の美術作家の映像表現に関する長年の研究成果を活かした映像展、近代日本の重要版画家恩地孝四郎および日本画家安田靉彦に新たな光を当てる個展を開催する。

<工芸館>

所蔵作品展では、日本の工芸の発展に重要な役割を果たしてきた茶の湯の器に焦点を絞り、コレクションの新たな活用を目指す。また、恒例となっている夏季のこども企画では、擬音語や擬態語から工芸の魅力を探る試みを行う。また、こども向けとおとな向けの2種のセルフガイドを配布して公衆の作品理解を深めるとともに、子ども連れの多い夏季ならではの需要に応じて来場機会の向上を目指す。冬季には、日本の近代工芸と同時代の海外作品にも目を向けて、幅広く工芸作品を紹介するとともに、新たな観覧者の獲得にも努める。

企画展では、京都国立近代美術館と協力して、日本の陶芸界に大きな足跡を残した栗木達介の初めての回顧展を開催する。また年度末から翌年度にかけては、民藝の作家から芹沢銈介を取り上げ、寄贈を受けた代表作を中心に、図案や原画なども加えて、芹沢の幅広い活動を紹介する。

加えて、本館ギャラリー4では、1970年の大阪万博をめぐるデザイナーの仕事に焦点を当てた、「大阪万博 1970 デザインプロジェクト」を開催するとともに、1920年から30年代に人びとを旅行へと誘ったポスターやグラフィック誌、旅行パンフレットを通して、東洋のイメージを振り返る「ようこそ日本・アジアへー1920-30年代のツーリズムとオリエンタル・イメージ（仮称）」を開催する。

<フィルムセンター>

上映会では、収集・復元の成果を最大に活用して「特集・逝ける映画人を偲んで2013-2014」、「映画監督 三隅研次」等、日本映画を代表する映画人の業績を顕彰する企画や、1980年代以降の新しい日本映画に焦点をあわせた「自選シリーズ 現代日本の映画監督4（仮称）」、無声映画をピアノ伴奏や弁士の語り付きで上映する「シネマの冒険 闇と音楽 2015」などを開催する。また、恒例となった「PFF」や「EU フィルムデイズ」のほか、東京国際映画祭等との共同主催による「生誕100年 没後30年 オーソン・ウェルズ特集（仮称）」、文化庁との共同主催による「日韓国交正常化50周年 韓国映画特集（仮称）」を開催し、共催によって可能となるプログラムの実施にも積極的に取り組み、多彩な鑑賞機会の提供を図る。さらに、展覧会の関連企画として「映画俳優 志村喬」「キューバ映画特集（仮称）」を開催し、上映と展示の連動にも力を注ぐ。

展覧会では、スチル写真・ポスター・プレス資料等の所蔵コレクションを活用しつつ、映画史と並行して脈々と出版されてきた国内の映画関連書籍をめぐる展覧会、志村喬を取り上げた展覧会を開催する。また京都国立近代美術館との共催でキューバの映画ポスター展を実施する。常設展については、所蔵コレクションのより効果的な公開を目指し、トーク等の事業を充実させる。

(京都国立近代美術館)

所蔵作品展では、企画展に連動したテーマや小企画を実施するとともに、年間5回の展示替えてコレクションを紹介する。また、キュレトリアル・スタディーズとして研究員の発表の場を設ける。

企画展では、東京国立近代美術館との交換展である「現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ヤゲオ財団コレクションより」を開催し、現代美術の名品を展示する。「ユネスコ無形文化遺産登録記念 北大路魯山人の美 和食の天才」では、魯山人の美食家としての側面を映像や写真により立体的に紹介する。「ポスターにみるミュージカル映画の世界」は、東京国立近代美術館フィルムセンターとの共同主催により開催するポスターの展覧会で、当館ではコレクション・ギャラリーの一部を用いて開催する。特別展「栗木達介展（仮称）」は、現代陶芸に一石を投じた栗木の回顧展であり、東京国立近代美術館工芸館と協力して開催する。「琳派400年記念『琳派イメージ』展（仮称）」は、京都で行われる琳派400年祭に合わせて、京都国立博物館、京都文化博物館、京都市美術館等と同じテーマで開催する。「志村ふくみ展（仮称）」は、志村ふくみの回顧展であり、60年に及ぶ志村の制作を検証する。

(国立西洋美術館)

所蔵作品展では、松方コレクションを含む絵画及び彫刻作品の展示とあわせ、版画素描展示室において小企画展を開催する。

企画展では、前年度に引き続き「グエルチーノ展」を開催するほか、「ボルドー展—美と陶酔の都へ—」では、ボルドー市の主要文化施設のコレクションを中心に、都市ボルドーとその周辺地域における美術・文化の展開を、先史時代から現代までの数万年にわたり概観する。「黄金伝説展」では、古代地中海世界の諸文化圏における金製品と、黄金にまつわる古代神話を主題とした西洋近世・近代の美術作品をあわせて展示し、金の輝きに魅了されてきた人間の歴史をふりかえる。「日伊修好通商条約150年記念 カラヴァッジョ展（仮称）」では、イタリア初期バロックの代表的画家カラヴァッジョの芸術を紹介するとともに、その劇的な明暗表現がヨーロッパ絵画に及ぼした影響をたどる。

(国立国際美術館)

所蔵作品展では、「クレオパトラとエジプトの王妃展」に合わせ、普段現代美術に興味のない層にも鑑賞いただけるよう、特別展来館者の動線を考慮した館内広報を行うなど、工夫した展示を行う。また、近年新たに収蔵したコレクションを活用した展示を行う。

企画展では、日本の現代美術を主導した高松次郎の作品を、前年度に東京国立近代美術館において開催された「高松次郎ミステリーズ」とは異なる視点のもとにド

ローイングを多数織り交ぜて構成した総合的な回顧展「高松次郎 制作の軌跡」を開催するほか、現代を代表する写真家であるティルマンズを紹介する「ヴォルフガング・ティルマンズ（仮称）」、アジア・オセアニア地域の現代美術を取り上げる国際巡回展「他人の時間」、ドイツ在住の美術家で国際的に活躍する竹岡雄二の個展「竹岡雄二展（仮称）」を開催する。また、共催展では、「クレオパトラとエジプトの王妃展」を開催し、幅広い層の関心に応じる。

(国立新美術館)

自主企画展では、日本が世界に誇る文化の諸相を大規模に展覧する。世界的に評価が高い3つのジャンルに着目し、これを歴史的に検証する大規模な展覧会として「ニッポンのマンガ＊アニメ＊ゲーム」を開催する。本展覧会は、海外巡回も視野に入れており、世界をリードするこれらの分野を包括的に紹介するかつてない試みとなる。また、韓国国立現代美術館と共同で企画する展覧会として、「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋——日本と韓国の作家たち」を開催する。両国の現代美術家とともに調査研究して選んだ12人の注目すべき作家たちを通じて、今日の日韓現代美術の一断面を浮かび上がらせる。一方、日本はもとより、世界を牽引する稀代のデザイナーの足跡を一望する大規模な個展「三宅一生展（仮称）」を開催する。

共催展では、前年度に引き続いて、「ルーヴル美術館展 日常を描く一風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」と「マグリット展」を開催する。また、「ニキ・ド・サンファル展」では、20世紀に活躍したフランス人美術家の優れた業績を、女性という立場からの社会への鋭いまなざしを考察しつつ振り返る。また、「大原美術館コレクション展（仮称）」では、日本の美術館の黎明期に誕生した大原美術館の理念に迫ることで、日本近代における世界の美術の受容を再考する。

①-2 国立美術館における企画機能の強化を図るため、引き続き、①交換展・共同企画展の充実と、②所蔵作品の相互貸出の推進に努めるとともに、③5館合同展「No Museum, No Life? ——これからの美術館事典 国立美術館コレクションによる展覧会」を開催する。

② 国立美術館の所蔵作品を効果的に活用し、地方における鑑賞機会の充実及び美術の普及を図るため、全国の公私立美術館等と連携して、地方巡回展を実施する。また、全国の公立文化施設等において優秀映画鑑賞推進事業を実施する。

ア 国立美術館巡回展

「国立美術館巡回展 東京国立近代美術館の名品でたどる近代洋画のあゆみ（仮称）」
(担当館：東京国立近代美術館)

(ア) 期間：平成 27 年 7 月 18 日（土）～8 月 23 日（日）（33 日間）

会場：釧路市立美術館

(イ) 期間：平成 27 年 9 月 12 日（土）～11 月 3 日（火・祝）（45 日間）

会場：神戸市立小磯記念美術館

イ 各館の巡回展

「東京国立近代美術館工芸館名品展（仮称）」

(ア) 期間：平成 27 年 9 月 18 日（金）～11 月 23 日（月・祝）（58 日間）

会場：射水市新湊博物館（富山県）

(イ) 期間：平成 28 年 1 月 5 日（火）～1 月 31 日（日）（24 日間）

会場：宮崎県立美術館（宮崎県）

ウ 優秀映画鑑賞推進事業

広く国民に優れた映画鑑賞の機会を提供し、あわせて国民の映画文化や映画芸術への関心を高め、映画フィルム保存の重要性についての理解を促進するため、文化庁との共催事業として、教育委員会、公共文化施設等と連携・協力して、全国各地で映画の巡回上映を実施する。

プログラム：100 作品 25 プログラム（1 プログラム 4 作品）

日本映画史を彩る名匠たちの代表作やスターが活躍するヒット作、時代劇、青春映画等、それぞれのジャンルを代表する名作、時代を画した話題作等で構成し、同時に、地域の特色を持った構成により、会場が参加しやすいよう工夫をする。

期間：平成 27 年 7 月 6 日（月）～平成 28 年 3 月 6 日（日）

会場：全国 190 会場（予定）

エ 巡回上映

(ア) ニューヨーク近代美術館 MoMA コレクション

期間：平成 27 年 4 月～11 月

会場：川崎など全国 5 会場（予定）

共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター、各実施会場

(イ) 蘇ったフィルムたち～東京国立近代美術館フィルムセンター復元作品特集

期間：平成 27 年 6 月～11 月

会場：札幌など全国 3 会場（予定）

共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター、各実施会場

- ③ 国立美術館は、展覧会ごとに実施目的、想定する入館者層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境の確保、広報活動、過去の入館者等の状況等を踏まえて入館者数の目標を設定し、その達成に努める。

(2) 美術創造活動の活性化の推進

- ① 国立新美術館は、美術団体等に公募展会場の提供等を行う。
- ア 平成 27 年度に公募展を開催する美術団体等に会場を提供する。
- イ 平成 29 年度に施設を使用する美術団体等を決定する。
- ウ 美術団体等が快適に施設を使用できる環境の充実を図るとともに、美術団体等と連携して教育普及事業を行う。
- ② 国際的に注目されるメディアアート、アニメ、建築、ファッションなど、様々な芸術表現を紹介し、新たな視点を提起する展覧会事業等を実施する。
- ア 東京国立近代美術館では「映像展（仮称）」において、1960-70 年代に、造形作家たちがビデオやフィルムなどの映像表現を試みた状況を改めて歴史的に検証しつつ、新発見作品も交えながら、その今日性を問う。所蔵作品展「MOMAT コレクション」においては、フィルムセンターとも協働し、各時代の世相を示す映像資料を展示内で活用するとともに、1970 年代以降の美術動向中重要な位置を占める映像作品の収集・展示にも力を入れる。また NHK と協働し、作家インタビューなどの番組映像の提供を受け、展示内で活用する。建築については、建築写真を組み込んだ特集展示を行う。
- イ 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、近年の復元作品や戦前戦後の代表作を含めた所蔵日本アニメーション映画を、上映会の趣旨や規模にあわせて選択・編成し、共同主催や貸与を通じて、国内外へ紹介する。また、「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業」（略称：BDC プロジェクト）において、ファイル化した所蔵戦前日本アニメーション映画について修復等を行い、貸与や複製利用等を通じたデジタルアクセスへの態勢を検討する。
- ウ 京都国立近代美術館では、「現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展ヤゲオ財団コレクションより」を開催し、欧米の現代美術のみならず、中国・台湾の近現代絵画も展示し、現代美術の多様性を紹介する。
- エ 国立西洋美術館では、国内唯一のル・コルビュジェ設計の同館本館建物について、引き続き、世界遺産登録に向けて地元自治体と連携し、パンフレットの配布や建築見学会、講座等の実施を通じて、近代建築に多大な影響を与えたル・コルビュジェと本館を紹介する。
- オ 国立国際美術館では、「他人の時間」において、シンガポールの作家による最新

技術を駆使した映像表現を含む展示を実施する。

カ 国立新美術館では、様々な芸術表現を紹介する展覧会事業等について以下のとおり実施する。

(ア) 世界的に評価が高いが、これまで日本の美術館が紹介を怠ってきた分野に焦点をあてた画期的な展覧会として「ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム」を開催する。また、世界に向けて発信する展覧会として、国際シンポジウムの開催や海外巡回の準備を行う。

(イ)「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋——日本と韓国の作家たち」では、日本と韓国出身の12人の作家たちの作品を通じて、今日の様々な芸術表現を紹介する。韓国国立現代美術館との共同研究でもある本展覧会は、アジア諸国と連携して、現代美術を振興し、広く紹介することを目指す。

(ウ)「三宅一生展（仮称）」では、ファッションの分野における世界屈指のデザイナーである同氏の活動の軌跡を紹介し、展示にも新たな趣向を凝らす。

(エ) 最先端のメディアアートを紹介する「文化庁メディア芸術祭」を開催する。

(オ) アニメーション表現による映像作品を紹介する機会として

「TOKYOANIMA!2015」を共催するとともに、「インターカレッジアニメーションフェスティバル(ICAF)2015」に特別協力する。また、「INTO ANIMATION」の開催準備に協力する。

(カ) B1Fに設置された大型ディスプレイ等の館内映像設備を活用し、アニメーション作品をはじめとするメディアアートを上映する。

(キ) 金曜日の夜間開館の時間帯を利用し、講堂にてアニメーション作品の上映企画「AT@NACT」を複数回実施する。

(3) 美術に関する情報の拠点としての機能向上

- ① 国立美術館は、所蔵作品・資料をデータベース化して国内外に発信するとともに、関連の資料を積極的に収集し、日本・アジアにおいては西洋美術の、世界においては日本近・現代美術の研究の中心となることを目指し、前年度に設置した「国立美術館のデータベース作成と公開に関するWG」において引き続き検討・作業を進める。

所蔵作品情報については、前年度に実施したガラス、木工、竹工、人形、金工等の工芸諸作品の著作権者の調査等に基づき、許諾を得たものについて所蔵作品総合目録検索システムに掲載し、収録画像の増加に努めるとともに、本年度はインダストリアル・デザイン、グラフィック・デザインの著作権者の調査を実施する。

これらにあわせて、所蔵作品総合目録検索システム、東京国立近代美術館・国立新美術館図書検索システム、国立新美術館アートコモンズ及び国立西洋美術館

作品検索等の連携情報システム（国立美術館版「想－IMAGINE」）を継続して公開する。

また、国立美術館の情報資源と国立国会図書館サーチ（NDL Search）及び国立情報学研究所による Webcat Plus、文化庁文化遺産オンライン等に掲載の文化情報資源を、国立情報学研究所の「想－IMAGINE」において連携するための調査研究を継続して実施する。

さらに、海外主要美術図書館横断検索システム（artlibraries.net）、東京国立近代美術館及び国立西洋美術館の図書館 OPAC との連携を引き続き維持する。

国立新美術館では、「アートコモンズ」の収録展覧会情報のより一層の充実を図り、展覧会情報と同館が有する美術情報との連携を進める。また、引き続き国内美術展カタログの海外への寄贈事業（Japan Art Catalog プロジェクト）の充実を図る。

前年度に引き続いて、他法人等と実行委員会を組織し、文化庁の補助事業として「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業 2015」（略称：JAL プロジェクト）を実施する。

- ② 法人本部のホームページについて内容の充実を図り、国立美術館の活動について周知広報を強化する。

また、各館の日本語版・英語版ホームページの内容の充実に努め、展覧会情報や調査研究成果の公表等、積極的な情報発信に努める。

（東京国立近代美術館）

ア 研究紀要 20 号（平成 27 年度刊行予定）の全文を、平成 28 年 3 月を目途にホームページで公開する。

イ ホームページ全体を刷新し、企画展、所蔵作品展に関する英文ホームページについて、日本語ホームページと同じく CMS 機能を活用し、拡充・更新に努める。

（京都国立近代美術館）

ア 展覧会情報、講演会、教育普及等のイベント情報をホームページに掲載し、情報の充実を図る。さらに、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用し、積極的に情報を発信する。

イ コレクション・ギャラリーの小企画、テーマ展示に関する小解説をホームページに掲載し、情報発信の充実に努める。

ウ 過去の展覧会情報をアーカイブ化して、引き続きホームページ上で公開する。

(国立西洋美術館)

- ア 所蔵作品に関する調査研究情報の継続的な収集・整理に努め、ホームページ上の作品データベースを通じて和英2ヶ国語で広く国内外に発信する。
- イ 展覧会活動その他の活動状況を和英2ヶ国語のホームページやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を通じて積極的に発信する。
- ウ 「国立西洋美術館ニュース ZEPHYROS」の全文掲載を継続して行うとともに、館の研究成果の公開のため機関リポジトリを視野に入れて情報発信基盤の構築を図る。
- エ 所蔵作品に関する情報資産の安全な運用のため、所蔵作品情報管理データのバックアップ・コピーの作成及び遠隔地での保管を実施する。

(国立国際美術館)

- ア 所蔵作品、展覧会情報、講演会、教育普及事業等のイベント情報をホームページに掲載し、情報の充実を図る。
- イ 情報コーナーのパソコンによる所蔵作品閲覧の充実に努める。
- ウ ホームページについて、現在の展覧会情報だけでなく、過去の展覧会情報についても充実を図る。

(国立新美術館)

- ア 適時、メールマガジンを配信するとともに、ホームページ上などで登録者の募集を引き続き行う。インターネット上のソーシャルネットワークサービス等の活用し、館の活動を積極的に発信し、ホームページへの利用者の誘導を行う。携帯版ホームページについては、スマートフォンへの対応を引き続き検討し、利用者の利便性の向上を目指す。
- イ 所蔵する図書資料や写真資料、戦後日本の展覧会データのホームページ上の横断検索を引き続き検討し、情報資源の積極的な活用を図る。
- ウ 脆弱な所蔵資料を対象としたデジタル化を平成26年度の検証実験を踏まえ、引き続き実施する。さらに、これまで閲覧に供することが難しかった脆弱な所蔵資料をデジタル化資料として提供する閲覧サービスを試験的に運用し、脆弱資料の保存と利用者の閲覧の利便性向上の両立を図る。

- ③ 美術史その他関連諸学に関する資料、国内外の美術館や展覧会に関する情報及び資料を収集し、各館の情報コーナー、アトライブラリー、資料閲覧室等において、情報サービスの提供を実施する。

また、全国美術館会議情報・資料研究部会による企画セミナー「美術情報・資料の活用－展覧会カタログから Web まで」（東京国立近代美術館、国立西洋美術館

及び国立新美術館から講師として参加) については、平成 21 年から平成 23 年までの 3 年間の実績を踏まえ、美術情報・資料に携わる全国の美術館学芸員の要望に更に沿い、具体的な課題を解決できるよう企画内容を再検討する。あわせて平成 24 年度実施の「全国美術館所蔵作品目録の目録」調査によって公開された『全国美術館会議会員館 収蔵品目録総覧 2014』(全美目録総覧 2014) についてさらに精査する。

ア 東京国立近代美術館では、近・現代美術関連資料を本館アートライブラリ、近・現代工芸関連資料を工芸館図書閲覧室、映画関連の図書資料をフィルムセンター図書室において収集し、公開する活動を継続的に進める。

『東京国立近代美術館 60 年史』刊行を踏まえ、館史資料の収集を継続しながらミュージアム・アーカイブの構築に関わる基礎的な調査研究を行う。あわせて「本館・工芸館企画展出品作家索引」を維持し、データベース化してホームページに公開しその活用を促す。

イ 京都国立近代美術館では、新たな図書管理システムを導入し、近・現代美術関連資料の公開に向けた取組に着手する。

ウ 国立西洋美術館では、西洋美術に関する情報及び資料を積極的に収集し、調査研究活動の推進に役立てる。研究資料センターにおいて外部利用者に公開する活動を継続的に行うとともに、平成 26 年度より実施している国際共同事業「アート・ディスカバリー・グループ目録」への参加等を通じて国立機関としてのサービスの質の向上を図る。

また、松方コレクション等の研究資源の公開に継続して取り組む。

エ 国立国際美術館では、資料室において所蔵する図書及び美術資料を外部利用者に公開する活動を将来的に行うため、新たに図書システムを導入する。

オ 国立新美術館では、国内有数の所蔵数を誇る展覧会カタログのコレクションの更なる充実に努めるとともに、日本の現代美術に関する資料アーカイブの構築を引き続き進める。また、平成 25 年 8 月に別館 1 階に開室した「アートライブラリー別館閲覧室」の一層の拡充を行い、利用者サービスの向上に取り組む。

④ 国立美術館において蓄積された作品、図書、展覧会等に関わる情報資源の安全な活用を図るためにデータの二重化を含めバックアップ体制を強化する。そのためのバックアップ用 VPN 回線を維持する。

また、いわゆる情報セキュリティポリシーに当たる「国立美術館情報資産安全対策基本方針」、「国立美術館情報資産安全管理規則」を踏まえ、安全管理のための実施細則の策定を引き続き進める。

東京国立近代美術館フィルムセンターでは、BDC プロジェクトを中心に、所蔵のフィルムや映画資料のデジタル化を進めるとともに、一部、電子的な公開も行

っていく。

(4) 国民の美的感性の育成

- ① 引き続き、年齢や理解の程度に応じたきめ細かい多様な事業を展開するとともに、美術教育に携わる教員等に対する美術館を活用した鑑賞教育に関する研修や学校で活用できる教材「アートカード」の貸出しや普及に努め美術の一層の普及を図る。また、学校や社会教育施設に対して、これら事業の広報に努める。
- ② 若年層の鑑賞機会の拡大を図るため、高校生以下及び18歳未満の観覧料無料化の普及広報に努める。また、大学等を対象とする会員制度「キャンパスメンバーズ」の利用者増加を図るため、学生向けウェブサイトの普及広報等に努めるなど、加入校増加を目指す。

(東京国立近代美術館)

<本館>

所蔵作品展、企画展ともに、幅広い層にあわせたレベルと内容の教育普及プログラムを実施する。特に小・中学生、高校生への鑑賞教育は、生涯にわたって美術と美術館に親しむための基礎的な学びの機会として位置付け、学校と連携しつつ実施し、調査・研究を進める。

ア 企画展に関する講演会やシンポジウム、ギャラリートークの実施

イ 所蔵作品展に関するアーティスト・トーク（約2回）、キュレーター・トーク（約15回）、解説ボランティアによる所蔵品ガイド（開館時毎日、約280回）やハイライトツアー（11回）の実施

ウ 企画展に関する教員のためのレクチャー付き内鑑賞会（約2回）、小・中学生のためのセルフガイドの会場配布（通年）

エ 小・中・高等学校や大学からの要請に応じた、児童・生徒・学生へのギャラリートーク、教員研修の実施

オ 教員研究団体（東京都図画工作研究会・東京都中学美術研究会）との連携による研修への協力

<工芸館>

所蔵作品展、企画展ごとにギャラリートークや工芸館ガイドスタッフによる鑑賞プログラム「タッチ&トーク」の他、観覧者の層に応じた様々な教育プログラムを実施する。

ア 企画展及び所蔵作品展に関する講演会やシンポジウム、アーティスト・トーク、ギャラリートークの実施

イ 企画展及び所蔵作品展に関する解説ボランティア（工芸館ガイドスタッフ）に

- よる鑑賞プログラム「タッチ&トーク」(約 90 回)の実施
- ウ 企画展及び所蔵作品展に関する教員のためのレクチャー付き内見会(約 2 回)、小・中学校教職員等を対象とした事前研究会の実施、指導案の配布
 - エ 各種教育機関からの要請に応じて、児童・生徒に対するギャラリートークや「タッチ&トーク」の実施
 - オ 夏季の所蔵作品展に関する児童生徒及び一般を対象とした 2 種のセルフガイドの作成・配布、未就学児から小学校低学年までを対象とした鑑賞教室「こどもタッチ&トーク」の実施、並びに子ども連れの来場者を対象とした「親子でタッチ&トーク」の実施
 - カ 作家との協力により小学校高学年から中学生を対象としたワークショップの実施

<フィルムセンター>

- ア 上映会・展覧会におけるトークイベント等の実施
- イ フィルムセンターが新たに復元した映画の上映と講演会の実施
- ウ 研究員の解説や弁士の公演等も交えながら映画の多様性に触れる機会を提供する「こども映画館」の実施(夏休み期間、4 日間程度)
- エ 相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構との文化事業等協力協定に基づく上映会や相模原市内の小・中学生を対象とした上映会の実施

(京都国立近代美術館)

前年度に引き続き、幅広い層の美術鑑賞教育への関心を高めることを重点目標に置き、外部からの自発的要望を積極的に支援し、美術鑑賞教育の核としての現場指導者の質の向上及び指導者の数的拡大を目指す。

- ア 学校等からの要請による美術館利用についての教員研修会等の受入れの促進
- イ 教員の美術館利用プログラムに対する支援
- ウ 学校、各種団体からの要請による解説の実施
- エ 小・中・高等学校及び大学の授業や課外活動との積極的な連携
- オ 企画展に関連した講演会やシンポジウム、ギャラリートークの実施
- カ 京都市教育委員会等との共催による「平成 27 年度図画工作指導講座『京都国立近代美術館との連携による鑑賞教育の充実に向けて』」を開催

(国立西洋美術館)

児童・生徒を対象としたプログラムをはじめ、多くの人々に美術と美術館に親んでもらうためのプログラム、コレクションを活用したテーマ性のある企画、対象を限定したプログラム等、それぞれの効果を考慮した幅広いレベルと内容のプログラムを提供する。

- ア 「スクール・ギャラリートーク」(小・中・高等学校の団体対象)の実施(予約制)
- イ 毎週日曜日及び第1、第3土曜日にボランティアによる「美術トーク」、第2、第4日曜日には「建築ツアー」を実施
- ウ ファミリー・プログラム「どようびじゅつ」(20回程度)、「びじゅつーる」(2回程度)の実施
- エ ファン・デーの実施
- オ ファン・ウィズ・コレクション(所蔵作品を活用したプログラム)の実施
- カ クリスマス・プログラム(トーク、クリスマスキャロル・コンサート等)の実施
- キ 企画展に関連した講演会(10回程度)とスライドトーク(10回程度)の実施
- ク 企画展に関連した「先生のための鑑賞プログラム(解説&無料観覧」(3回程度)の実施
- ケ 障害者を対象とする特別プログラムの実施(2回)

(国立国際美術館)

幅広い層の人々が美術館に親しみ、美術鑑賞の機会を身近に感じられるよう、企画展ごとに関連講演会、ギャラリートーク等を開催する。また、低年齢層も同様に美術鑑賞の機会を享受できるよう、子ども向けの各種プログラムを実施する。その他、美術館がより開かれた場所となるよう、各種イベントを開催する。

- ア 小・中学生向け作品鑑賞ツアー「こどもびじゅつあー」(8日間16回程度)の実施
- イ ファミリー・プログラム「なつやすみびじゅつあー」、「びじゅつあーすぺしゃる」(4日間8回程度)の実施
- ウ 企画展に関連した講演会・対談・アーティスト・トーク(10回程度)、ギャラリートーク(8回程度)、コンサート等、イベントの実施
- エ 小・中・高等学校や大学からの要請に応じた、児童・生徒・学生へのオリエンテーション及びギャラリートークの実施
- オ 子どもから大人までを対象にした現代美術作家等によるワークショップ(4日間程度)の実施
- カ 「鑑賞ミーティング(仮称)」(小・中・高・特別支援学校の教職員及び鑑賞教育の従事者を対象)(8回程度)の実施
- キ 美術館活用及び鑑賞教育に関する教員研修の実施
- ク 教員研究団体との連携による研修会の実施
- ケ 小・中学生向け鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」の発行

(国立新美術館)

来館者の作品鑑賞の充実を目的として、展覧会ごとに講演会やアーティスト・トークを実施するほか、より多くの人々に美術に親しむ機会を提供するためのプログラムを幅広い層を対象に実施する。

ア 展覧会にあわせた講演会及びアーティスト・トーク、ギャラリートーク等の実施
(10 回程度)

イ 子どもから大人まで幅広い層を対象にした作家等によるワークショップ等の実施
(6 回程度)

ウ 美術団体等との連携による講演会、鑑賞会及びギャラリートーク等の実施

エ 鑑賞ガイドの作成及び配布 (2 回程度)

オ 児童、生徒、学生を対象とした鑑賞ガイダンスの実施

カ 美術や美術館をテーマとした館長とゲストによるトークイベントの実施

キ ロビーコンサートの実施 (3 回程度)

③ ボランティアや支援団体の育成と相互協力による教育普及事業の充実を図る。

(東京国立近代美術館)

<本館>

ア 本館ガイドスタッフ (ボランティア) 約 40 名により、所蔵作品展の所蔵作品ガイド (開館時毎日、280 回程度)、「ハイライト・ツアー」(11 回) 及び夏季の児童向けの鑑賞プログラム「こども美術館」・「トークラリー」を実施する。

イ 本館ガイドスタッフによる小・中学生グループの受入れ等、鑑賞教育の充実を図る。

ウ 外部講師又は研究員によるフォローアップ研修 (年 2 回程度) を開催して、ガイドスタッフの意欲とガイドテクニックの向上を図る。

エ 友の会、賛助会については、会員証提示による優待割引を実施するとともに、ミュージアムショップなどでの割引を引き続き実施する。

<工芸館>

ア 工芸館ガイドスタッフ (ボランティア) 約 35 名により、一般観覧者向けの鑑賞プログラム「タッチ&トーク」(会期中の水・土曜日、90 回程度) 及び夏季の児童向けの鑑賞教室「こどもタッチ&トーク」を実施する。

イ 工芸館ガイドスタッフにより、外国人及び国際的な文化交流に関心を持つ日本人を対象とした英語による鑑賞教室「英語タッチ&トーク」を実施する。

ウ 工芸館ガイドスタッフ (7 期メンバー) の募集と養成研修を実施する。

エ 研究員等によるフォローアップ研修を開催して、ガイドスタッフの意欲とトーク技術の向上を図る。

オ 友の会、賛助会については、会員証提示による優待割引を実施するとともに、ミュージアムショップなどでの割引を引き続き実施する。

(京都国立近代美術館)

ア 京都市との連携により、京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」修了者の中からボランティアを受け入れ、来館者へのアンケート調査等に携わってもらうことで、ボランティアの経験、知識の向上等に協力する。

イ 友の会については、各展覧会の解説会を実施するとともに、京都国立博物館、京都市美術館、京都文化博物館と連携して会員証提示による優待割引を引き続き実施する。

(国立西洋美術館)

ア ボランティアスタッフ 43 名による、ファミリープログラム、小・中・高等学校生の団体を対象とした常設展（所蔵作品展）でのスクール・ギャラリートーク、週末の一般向け「美術トーク」（約 60 回）及び「建築ツアー」（約 24 回）を実施する。ファミリープログラムの「どようびじゅつ」（20 回程度）については、希望者を募り企画から参加してもらうことでボランティアの育成にもつながるよう検討する。その他に、クリスマス・プログラム、ファン・ウィズ・コレクション、ファン・デー等のプログラム補助を行う。

イ ボランティアの育成を目的として、プログラム遂行のためのスキルアップ研修及び広く美術に関する知識を学ぶための研修を実施する（年 2 回程度）。

ウ 都立上野高校の「奉仕」課外授業に協力し、高校生ボランティアを育成する。

(国立国際美術館)

ア 学生ボランティアを受け入れ、美術資料の整理や、展覧会、講演会及びワークショップ等の補助作業に参加させ、美術館活動の基本を学べるようにする。

イ 友の会については、会員参加型のイベントの開催等、活動内容等の充実を図るとともに、法人会員の加入に努める。

(国立新美術館)

ア 国立新美術館サポート・スタッフとして学生ボランティアを受け入れ、美術館における業務の補助を通じた実務経験の機会を提供する。

イ 教育普及事業等への企業協賛獲得に積極的に取り組む。

ウ 近隣関係施設と連携・協力し、「六本木アート・トライアングル」を構成して、展覧会スケジュールが入ったマップの配布や、美術の普及につながる活動を行う。

④ 東京国立近代美術館フィルムセンターは、京都国立近代美術館及び国立国際美術館との共同主催により、所蔵フィルム・映画関連資料を用いた上映会又は展覧会を開催し、鑑賞機会の拡大と映画文化の普及を図る。

ア 「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films」(年 5 回程度)

会場・共催：京都国立近代美術館

イ 「第 11 回中之島映像劇場—東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品による」

期間：平成 28 年 3 月

会場・共催：国立国際美術館

ウ 「ポスターにみる ミュージカル映画の世界」

期間：平成 27 年 6 月 6 日(土)～8 月 16 日(日)

会場・共催：京都国立近代美術館

(5) 国立美術館における展示、教育普及その他の美術館活動の推進を図るため、調査研究を計画的に実施し、その成果を美術館活動に反映させる。実施に当たっては、国内外の博物館・美術館及び大学等の機関との連携を図る。さらに、館外の学術雑誌、学会等に掲載・発表するとともに、研究紀要を発行するなど、調査研究成果を発信するよう努める。

また、募集情報等の共有を図り、科学研究費補助金等の研究助成金の申請や外部資金の獲得を促進する。

各館においては、別表 2 の調査研究を実施する。

(6) 快適な観覧環境等の提供

① 各館において、引き続き動線の改善や鑑賞しやすさ、理解のしやすさに配慮するための工夫を行う。

また、より良い鑑賞環境を提供するための様々な方途について検討する。

なお、引き続きアンケート調査等の結果を踏まえ、快適な観覧環境等の提供に努める。

(東京国立近代美術館)

<本館>

ア ガイドマップ他を活用し、館のイメージ刷新や東京駅方面からの来館者の誘導に努める。

イ 展覧会カレンダーを配布する。

ウ 館紹介パンフレット(日本語・英語)を配布する。

- エ 会場で配布する出品リスト等をより見やすくするために文字を大きくするなど必要な改善を行う。
- オ 所蔵作品展において、引き続きキャプション・解説パネル等文字要素の視認性を重視し、また多言語化を図る。
- カ 所蔵作品展において、日本語版・英語版音声ガイドの貸出しを行う。
- キ 企画展において可能な限り「フロアガイド」を配布する。
- ク 企画展（年1回）、所蔵作品展（通年）において、小・中学生向けのセルフガイドを配布する。
- ケ 企画展において、可能な限り多言語対応（英語、中国語、韓国語）を図る。
- コ エントランスホールを含め、館内サイン環境や快適さを向上させるための具体策を策定、一部実施する。

<工芸館>

- ア フロアガイド、作家名・作品名の読み方、素材・技法等を記載した出品リストを作成・配布するとともに、作家や作品の解説パネルやキャプションを作成・掲示するなど、鑑賞のための情報提供を促進する。
- イ 所蔵作品展開催時に設置している各作品の注目ポイントを写真と文章で明示した鑑賞カードの充実を図り、来館者が興味深く鑑賞できるよう情報提供に努める。
- ウ 所蔵作品展「こども+おとな工芸館—もようわくわく—」において、児童生徒並びに一般の来館者を対象とする2種類のセルフガイドを配布する。

<フィルムセンター>

- ア 展覧会の開催に際し、展示作品の出品目録を配布する。
 - 「シネマブックの秘かな愉しみ」(1回)
 - 「生誕110年 映画俳優 志村喬」(1回)
 - 「キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより」(1回)
- 計3回配布

(京都国立近代美術館)

- ア 館概要（日本語、英語、独語、仏語、西語、伊語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 展覧会案内を配布する。
- ウ 小・中学生に対してガイドブックを配布する。
- エ 京都国立博物館、京都市美術館、京都文化博物館と共同して、年間展覧会案内を配布し、展覧会案内を利用したスタンプラリーを引き続き実施する。

(国立西洋美術館)

- ア 国立西洋美術館ブリーフガイドを配布する。
- イ 企画展において「作品リスト」(日本語、英語)及び小・中学生向け解説「ジュニア・パスポート」を配布する。
- ウ 国内唯一のル・コルビュジエ設計の同館本館建物を観覧者に対して紹介する「建築探検マップ」(日本語、英語、仏語、中国語(繁体字・簡体字)、韓国語)を配布する。
- エ これまで導入してきた「Touch the Museum」について、新機種スマートフォンで利用できるよう更新を検討する。

(国立国際美術館)

- ア 館概要リーフレット(日本語、英語、中国語、韓国語)を配布する。
- イ 展覧会において、「フロアガイド」を配布する。
- ウ 小・中学生向け解説「ジュニア・セルフガイド」を配布する。

(国立新美術館)

- ア 館フロアガイド(日本語、英語、独語、仏語、西語、中国語、韓国語)を配布する。
- イ 展覧会カレンダー(日本語、英語)を作成・配布する。
- ウ 展覧会において「作品リスト(日・英)」を作成・配布する。
- エ 展覧会において鑑賞ガイドを作成・配布する。
- オ 文字を大きくし、見やすくした「大きな文字の利用案内」を配布する。
- カ 美術館の活動を紹介する「国立新美術館ニュース」を作成・配布する。

② 入館料及び開館時間の弾力化等により、入館者サービスの向上を図るため、次のとおり実施する。

- ア 東京国立近代美術館本館・工芸館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館では、引き続き65歳以上の来館者について所蔵作品展の無料化を実施する。
- イ 高校生以下及び18歳未満の観覧料無料化の普及広報に努める。
- ウ 展覧会の混雑状況を考慮し、開館日・時間等について柔軟な対応を行う。
- エ 来館者のサービスの向上を図るため、現状の夜間開館についての回数や時間が適正であるかの検討を行う。
- オ 学生等の美術鑑賞への興味と関心を高めるため、学生向けウェブサイトの普及広報等、キャンパスメンバーズ制度の普及広報に努める。
- カ 「国際博物館の日」は、国立西洋美術館では5月18日(月)及びその翌日を所

蔵作品展の無料観覧日にするとともに、国立新美術館では、展覧会の実施形態に応じ、企画展及び公募展観覧料の無料化や割引観覧を実施する。

キ 東京国立近代美術館及び国立西洋美術館は、東京都が実施する外国人旅行者への観光事業「ウェルカムカード」に参加し、外国人旅行者に対して所蔵作品展の割引観覧を実施する。

ク 東京国立近代美術館、国立西洋美術館及び国立新美術館は、共通入館券事業「ぐるっとパス」に参加し、観覧料の低廉化を図る。

ケ 京都国立近代美術館、国立国際美術館は、共通入館券事業「ミュージアムぐるっとパス・関西 2015」に参加し、観覧料の低廉化を図る。

コ 東京国立近代美術館及び国立西洋美術館は、東京都が実施する青少年育成事業「家族ふれあいの日」に参加し、所蔵作品展観覧料の優待を実施する。

(東京国立近代美術館)

ア 国民に広く美術作品等に親しんでもらうため、所蔵作品展を廉価で観覧できるパスポート観覧券の販売促進のための広報等に努める。

イ 企画展を含め、幅広く展覧会に親しんでもらうため、国立美術館各館の所蔵作品展と東京国立近代美術館の企画展を観覧できる友の会の広報等に努める。

ウ 東京シティアイと連携、協力し、外国人観光客及び東京への観光者に美術館の基本情報及び展覧会情報を提供する。

エ クレジットカード及び電子マネー（suica 及び PASMO 等）による観覧券の窓口販売を行う。

<本館・工芸館>

ア 年始は1月2日（土）から開館する。

イ 休館日のうち、4月6日、5月4日、7月20日、9月21日、10月12日、11月23日、平成28年1月11日、3月21日、3月28日を開館する。

ウ 東京メトロ、JAF、日本私立学校振興・共済事業団、学士会館等と提携し、会員証等の提示による優待割引を実施、当該広報誌による展覧会広報とともに観覧料の低廉化を行う。

<フィルムセンター>

ア 大ホールと小ホールの上映時間の重複を極力避けた柔軟なタイムテーブルの編成を行い来館者の鑑賞機会の増加に努める。

イ 上映会の鑑賞者に対し、当日の展覧会観覧料の割引を行う。

(京都国立近代美術館)

ア 休館日のうち5月5日（火・祝）、9月22日（火・祝）を開館する。

イ 3月31日から8月16日までの企画展開催中の金曜日の開館時間を3時間延長

し、午後 8 時までとする。

ウ 京阪カード会社、阪急阪神カード会社等と提携し、カード提示による優待割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

エ 京都国立博物館、京都文化博物館、京都市美術館との相互割引観覧の実現に努める。

(国立西洋美術館)

ア クレジットカード及び電子マネー (Suica 及び PASMO 等) による観覧券の窓口販売を行う。

イ 休館日のうち、国際博物館の日の 5 月 18 日 (月) とお盆期間中の 8 月 10 日 (月) を開館する。

ウ 年始は 1 月 2 日 (土) から開館する。

エ 春の企画展開催日から秋の企画展閉会日までの開館時間を 30 分延長し、午後 5 時 30 分までとする。

オ 「国際博物館の日」に上野地区の諸機関と連携してイベントを行う。

カ 東京国立博物館、国立科学博物館との国立 3 館共通入場券 (所蔵作品展・期間限定) を作成する。上野地区内の施設や商業施設との連携を深めることにより、入館サービスの向上を図り、来館者数増を目指すとともに今後の継続実施に向けての検証を行う。

(国立国際美術館)

ア 金曜日の閉館時間を午後 7 時まで延長する。

イ 「大阪周遊パス 2015」、大阪市交通局「エンジョイエコカード」等に参加し、観覧料の低廉化を図る。

ウ 近隣のホテル等と提携し、ホテル等利用者または展覧会入場者に対して相互に利用割引を行い、展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

エ 京阪カード会社、阪急阪神カード会社等と提携し、カード提示による割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

(国立新美術館)

ア 休館日のうち、5 月 7 日 (木)、5 月 26 日 (火)、9 月 24 日 (木) を開館する。

イ 「六本木アート・トライアングル」を構成する近隣の美術館と観覧料の相互割引を行う。

ウ 「六本木アートナイト」(平成 27 年 4 月 25 日 (土)、26 日 (日)) の開催に伴い、4 月 25 日 (土) の「ルーヴル美術館展 日常を描く一風俗画にみるヨーロッ

- パ「絵画の真髄」及び「マグリット展」の開館時間を午後 10 時まで延長する。
- エ 美術団体等と協議の上、企画展及び公募展の観覧料の相互割引の実施を推進する。
- オ 自主企画展における公募展との相互割引に関して、65 歳以上の観覧者については、通常の割引後観覧料に代えて、大学生団体料金を試行的に適用し、高齢者の観覧料の低廉化を図る。
- カ 同時期に開催する企画展の相互割引を実施する。
- キ 共催者と協議の上、共催展の高校生無料観覧日を設定する。
- ク クレジットカード及び電子マネー（Suica 及び PASMO 等）による観覧券の窓口販売を行う。
- ケ 小学生以下の子どもを対象とした託児サービスを通年で実施する。
- コ ルーヴル美術館展「日常を描く一風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」及び「マグリット展」において、毎週金曜日の夜間開館に加え、会場内の混雑緩和を図るため、会期中の土曜日及び日曜日である 5 月 23 日（土）、24 日（日）、30 日（土）、31 日（日）に夜間開館を実施し、開館時間を午後 8 時まで延長する。
- ③ 利用者のニーズを踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等の充実を図る。
- ア 東京国立近代美術館本館では、展覧会にあわせ、レストランと連携、協力しコラボレーションメニューの開発、席の拡充や営業時間の延長など来館者サービスの向上を図る。
- イ 京都国立近代美術館では、カフェと連携、協力し、展覧会にあわせたテーマランチやテーマデザートの提供を行う。
- ウ 国立西洋美術館では、レストランにおいて展覧会にちなんだメニューの提供を推進するとともに、「国立西洋美術館ニュース ZEPHYROS」やホームページで広報する。また、更なる来館者サービスの向上を図るため、ミュージアムショップにおけるオリジナルグッズの開発、販売方法等を検討する。
- エ 国立国際美術館では、ミュージアムショップと連携・協力してホームページに掲載されている商品情報等を充実させる。
- オ 国立新美術館では、ミュージアムショップと連携し、オリジナルグッズの開発やショップ内のギャラリーの展示に対する企画協力を行い、美術館の魅力の創出に努める。また、レストランと協力し、展覧会に関連した特別メニューの提供など、利用者へのサービス向上を図る。

2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

- (1)-1 各館の収集方針に沿って、体系的・通史的にバランスのとれた所蔵作品の蓄積を図る。作品の収集に当たっては、その美術史的価値や意義等についての外部有識者の意見等を踏まえ、適切な購入を図る。また、収集活動を適時適切に行うために、美術作品の動向に関する情報の入手と機動性の向上に努める。

あわせて、購入した美術作品に関する情報をホームページで引き続き公開する。

(東京国立近代美術館)

<本館>

近代日本美術の体系的コレクションの構築を引き続き図りつつ、近代日本美術に影響を与えた海外作家の作品、及び日本と海外の同時代美術作品の収集を積極的に行う。本年度は特に次の点について留意する。

- ア 1970年代以降の日本と海外の作品の収集
- イ 日本の美術に多大な影響を与えた海外作家の作品の収集
- ウ 1900-1940年代の日本画作品の収集

<工芸館>

近代日本における工芸の体系的コレクションの充実を図る。本年度は特に次の点について留意する。

- ア 日本工芸の近代化を示す作品の補充
- イ 戦後から現代に至る伝統工芸や造形的な表現、クラフト等の重要作品の収集
- ウ 近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集

<フィルムセンター>

映画を芸術作品のみならず、文化遺産として、あるいは歴史資料として、網羅的に収集することを目標に、日本映画の収集を優先しながら、時代を問わず散逸や劣化、滅失の危険性が高い映画フィルムを収集・復元するとともに、アニメーション映画作品、デジタル復元による成果物、上映事業や国際交流事業に必要な上映用素材、企業の管理下に置かれない自主製作映画や実験映画、これまで受入れのなかった会社等からの寄贈映画フィルムの収集を行う。また、映画資料についても、日本映画にかかわるものを中心に、映画史の調査研究に資する資料の収集を行う。本年度は特に次の点について留意する。

- ア 「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業」(BDCプロジェクト)と連動し、フィルム映画をデジタル化した保存用素材及び上映用素材、デジタル映画から複製された保存用素材、上映用素材及びレコーディングしたフィルム等の収集を行う。
- イ 映画の撮影及び現像の際に利用されたデジタル・データの保存に向けて、適切

な素材となるフィルムの収集を行う。

ウ 前年度に引き続き、日本と関わりのある外国映画の収集を行うとともに、外国との合作による作品、海外でロケをした作品等の充実を図る。

エ 前年度に引き続き、初期トーキー、初期カラーの試みを反映した作品の収集と復元を行う。

オ 70mm フィルム等大型映画の適切な保存・復元に向けて着手する。

(京都国立近代美術館)

ア 前年度に引き続き、我が国の近・現代において生み出された美術、工芸、建築、デザイン、写真等で、主として美術・工芸作品について、近・現代日本美術史の骨格を形成する代表作及び作家の各時期において重要な位置を占める記念的作品、我が国の美術史に組み込まれていくことになる現代美術の秀作を積極的に収集するとともに、優れた写真作品の収集も継続して行う。また、海外作品の充実を図るため、前衛的傾向を示す海外の美術作品についても、継続して収集を目指す。

イ 京都に設置されている立地条件から、京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き、地域性に立脚した所蔵作品の充実を継続して図る。

(国立西洋美術館)

ア 15～20 世紀ヨーロッパ絵画等の収集に努める。

イ ドイツ・フランドル・イタリア・フランスを中心にヨーロッパ版画のコレクションを充実させる。

ウ 国内に残る旧松方コレクション作品の情報収集を継続する。

(国立国際美術館)

ア 1945 年以降の日本の現代美術作品の系統的収集を継続する。

イ 国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集を継続する。

(1)-2 寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、所蔵作品展等における積極的な活用を図る。

(1)-3 美術作品購入費（特殊業務経費）については、緊急を要する美術作品や通常の予算では購入できない金額の美術作品を優先的に購入することとする。購入作品の選定に当たっては法人全体で協議する。

なお、作品収集に関しては、学芸課長会議等で情報交換や連絡調整を行う。

(2) 保存施設の狭隘・老朽化への対応に取り組む。

ア 各館における対策はもとより、収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化の抜本的な改善を図るため、各館で横断的に活用が可能な形態や方法について、既存の施設との連携を図りながら、地元自治体や関係機関の協力を得て検討を進める。

(3) 所蔵作品の保存状況について、各館の連携・調整を行い、特に緊急に処置を必要とする作品について重点的に修理・修復を行う。

ア 東京国立近代美術館本館では、引き続き作品貸与時の対応も含め、保存科学と修復に関する外部の専門家との定常的な連携を進める。特に、日本画の屏風等大型作品の修復、作品の安全性を高める額装の改変などを中心的に進める。

イ 東京国立近代美術館工芸館では、展示や貸出等の活用頻度の高い工芸作品のうち染織と漆工、人形作品の現状保存修復を行う。作品収蔵庫の燻蒸・クリーニング及び展示会場のクリーニングを継続して行う。

ウ 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、前年度に引き続き、『日本南極探検』(1912年)等歴史資料として貴重な作品について、残存素材の調査を踏まえた保存・復元を進める。可燃性フィルム及びビネガーシンドローム等劣化の著しいフィルムの保存・復元について、症状に応じた柔軟な処置を施す。大型映画、実験映画、最初期の色再現であるステンシルカラーについて、デジタル技術の応用を含めた、保存・復元の検討に着手する。また、映画ポスターやシナリオ、プレスといった映画資料についても保存修復措置を行う。

エ 京都国立近代美術館では、寄贈により収集したものの、作品保護の観点から展示できない美術作品を中心に保存修復処置を行う。経年劣化による影響の大きい日本画を中心に進め、当館での展示のみならず、作品貸与の依頼にも応えられるようにする。

オ 国立西洋美術館では、前年度に引き続き大型彫刻作品と指輪コレクションの保存修復処置を重点的に行うとともに、展示機会の多い近代絵画作品、近く展示を予定している版画・素描作品等の保存修復処置を行う。

カ 国立国際美術館では、白髪一雄《天雄星 豹子頭》(1959年)や、小林孝亘《House Dog》(1995年)、《Forest》(2000年)等、緊急に処置を要する貴重な作品を中心に保存修復処置を行う。

キ 国立新美術館では、保存状態が悪く、そのままでは利用が難しい寄贈資料について、燻蒸・クリーニングを行う。

(4) 国内外の博物館・美術館、大学等と連携し、所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究を実施し、その成果を業務に反映させる。

ア 東京国立近代美術館本館では、引き続き作品貸与時の対応も含め、保存科学と

修復に関する外部の専門家との定常的な連携を進める。

イ 東京国立近代美術館工芸館では、外部の専門家との定常的な連携を進め、展示や貸出等の活用頻度の高い工芸作品のうち、染織と漆工、人形等の作品の現状保存修復を行う。平成 25 年度と平成 26 年度に実施した作品収蔵庫及び展示会場の燻蒸・クリーニングの効果を維持するために、継続したクリーニングを重点的に行う。

ウ 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、引き続き可燃性フィルムを含むフィルム映画及びデジタル映画の長期保管・保存・登録、アナログ及びデジタル技術を活用した復元に関する調査研究（FIAF 会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、美術館・博物館、映像機器メーカー、現像所等との共同研究）を進めるとともに、「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究事業」（BDC プロジェクト）の成果を、収集・上映・展示事業等に反映させる。映画製作者等諸団体との連携により、不明であった所蔵作品の権利帰属等メタデータを収集し、データベースの充実を図るとともに、その成果を上映事業や複製利用等に反映させる。また、映画製作会社、関連職能組合、現像所等の協力を得て、映画の撮影及び現像の際に利用されたデジタル・データの調査研究を行い、その成果を収集事業等に反映させる。

エ 京都国立近代美術館では、館外の修理業者の助言を仰ぎつつ、所蔵作品について適切な保存・管理を進める。

オ 国立西洋美術館では、前年度に引き続き、展示及び貸出しに向け、所蔵作品の状態及び展示用品・保管用品の構造や材質について調査研究を行う。貸出時の作品管理のための最適なデータロガーの調査・検討とクレートの仕様に関する研究を行う。

カ 国立国際美術館では、所蔵作品、特に、高松次郎の影の作品、及び映像や写真作品に関する調査研究を継続するとともに、基礎資料の収集を行う。

3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

(1) 各館の調査研究の成果については、研究紀要、図録への論文発表等によって広く発信する。

国立美術館 5 館の事業成果を取りまとめた国立美術館年報について、本部において編集し発行する。

(東京国立近代美術館)

<本館>

ア 研究紀要、展覧会や企画上映に伴う図録、「現代の眼」等の刊行物を発行する。

イ 小・中学生向け解説パンフレット「セルフガイド」を発行する。

<工芸館>

- ア 展覧会に伴う図録、所蔵作品による工芸ハンドブックを発行する。
- イ 所蔵作品展「こども+おとな工芸館—もようわくわく」において、児童生徒並びに一般来館者を対象とした2種類の解説パンフレット「セルフガイド」を発行する。

<フィルムセンター>

- ア 「NFC ニュースレター」等を発行する。
- イ 2010年に発行した「全国映画資料館録」のリニューアル最新版を制作する。

(京都国立近代美術館)

- ア 展覧会に伴う図録、美術館ニュース「視る」を発行する。
- イ 京都国立近代美術館研究誌「CROSS SECTIONS」第7号を発行する。
- ウ コレクション・ギャラリーでは展示替え毎に、展示の概説をホームページ上に公開する。

(国立西洋美術館)

- ア 研究紀要、展覧会に伴う図録、「国立西洋美術館ニュース ZEPHYROS」を発行する。
- イ 展覧会ごとに小・中学生向け解説パンフレット「ジュニア・パスポート」を発行する。

(国立国際美術館)

- ア 展覧会に伴う図録及び「国立国際美術館ニュース」を発行する。
- イ ジュニア・セルフガイドを発行する。
- ウ 先生のための活用ガイドを発行する。

(国立新美術館)

- ア 展覧会に伴う図録を発行する。
- イ 鑑賞ガイドを発行する。
- ウ 新たに研究紀要を発行する。

(2)-1 国内外の研究者を招へいし、各種セミナー・シンポジウムを開催する。

- ア 東京国立近代美術館本館では、「片岡球子展」、「No Museum, No Life? —— これからの美術館事典 国立美術館コレクションによる展覧会」、「映像展」、「恩地孝四郎」において、国内外から研究者を招くなどして講演会を開催する。
- イ 東京国立近代美術館工芸館では、「大阪万博 1970 デザインプロジェクト」にお

- いて、大阪万博の鉄鋼館に展示された音響彫刻（復元修復）による演奏会やワークショップ、シンポジウム等を開催する。
- ウ 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」（10月27日）を記念して講演会等を開催する。
- エ 京都国立近代美術館では、研究者を招へいし、各展覧会の開期中に講演会を開催する。
- オ 国立西洋美術館では、「グエルチーノ展 よみがえるバロックの画家」、「ボルドー展 美と陶酔の都へ」及び「黄金伝説展」にあわせ、講演会を各展覧会数回ずつ開催する。
- カ 国立国際美術館では、「他人の時間」の開催に際し、アジア・オセアニアの現代美術についてのシンポジウム及び所蔵作品に関する講演会を開催する。
- キ 国立新美術館では、企画展や美術及び教育普及に関する講演会及びセミナー等を開催する。また、企画展に関わるシンポジウムを開催する。

(2)-2 展覧会等の紹介や企画につき海外の美術館との連携・協力を図る。

- ア フィルムセンターは、海外において以下の共催上映を実施する。

「日本の初期カラー映画特集」パート1

期間：平成27年6月27日（土）～7月4日（土）

会場：フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャ
（イタリア・ボローニャ）

共催：フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャ

日本の初期トーキー映画特集

期間：平成27年5月6日（水）～20日（水）

会場：ニューヨーク近代美術館（アメリカ・ニューヨーク）

共催：ニューヨーク近代美術館

日本の初期アマチュア映画特集

期間：平成27年5月5日（火）

会場：オーバーハウゼン国際短篇映画祭（ドイツ・オーバーハウゼン）

共催：オーバーハウゼン国際短篇映画祭

- イ 国立国際美術館では、「他人の時間」の開催に向けて、共催者であるクイーンズランド州立美術館 | 現代美術館（オーストラリア）及びシंगाポール美術館と連携する。
- ウ 国立新美術館では、下記の展覧会の開催において、共同企画者と連携する。
- ・「アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋——日本と韓国の作家たち」：共同企画者 韓国国立現代美術館

- ・「ルーヴル美術館展 日常を描く―風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄」：共同企画者 ルーヴル美術館
- ・「マグリット展」：共同企画者 ベルギー王立美術館
- ・「ニキ・ド・サンファル展」：共同企画者 グランパレ美術館

(3) 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)加盟機関及び国内映像関連団体並びに研究機関等と情報交換を図りながら、映画フィルムの保存・修復活動等に携わる機関や団体への協力を行う。

(4) 所蔵作品について、その保存状況や展示計画を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に実施する。

ア 東京国立近代美術館本館では、国立美術館巡回展に約 50 点を貸与する他、平成 26 年度特別購入予算で購入したセザンヌ《大きな花束》を 4 月から「セザンヌ展」(ポーラ美術館)に貸与するなど、法人内はもとより国内外での積極的な活用をはかる。その他にも国内外の貸与依頼に積極的に応じる。前年度に引き続き、増大する貸与業務の安全化・効率化のため、事前の採寸・箱作成、輸送指示等を一層徹底する。

イ 東京国立近代美術館工芸館では、所蔵作品による巡回展(射水市新湊博物館、宮崎県立美術館)や文化庁主催「日本のわざと美」等への貸与を計画的に実施する。

ウ 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、保存・復元の成果や、日本映画を中心にこれまで充実させてきたコレクションの紹介を目的に、地方及び海外の同種機関や映画祭等に対し、共催及び貸与を通して上映会・展覧会の開催に協力する。また、所蔵作品及び関連情報へのアクセスの増大と多様化への効率的な対応を念頭に、引き続き DVD の作成・販売、配信等、デジタル・アクセスに対する検討を行う。

エ 京都国立近代美術館では、従来どおり、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設からの借用依頼に積極的に対応する。

オ 国立西洋美術館では、「ボナール 描かれたアルカディア」(フランス、オルセー美術館他)、「日本における印象派愛好―モネからルノワールまで」(ドイツ、ブンスクンストハレ)、「セザンヌ展」(ポーラ美術館)等に貸与を行う。

カ 国立国際美術館では、作品の状態や同館での活用計画を踏まえ、借用依頼に積極的に対応する。「ピカソ展 誰でもわかる天才の名画(仮称)」(ふくやま美術館)等に貸与を行う。

(5) 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとして、次の事業を行う。

ア 小・中学校の教員や学芸員が、学校や美術館で活用できる鑑賞教育用教材の普及を図る。

イ 各地域の学校と美術館の関係の活性化を図るとともに、子どもたちに対する鑑賞教育の充実に資するため、各地域の鑑賞教育や教育普及事業に携わる小・中学校の教員と学芸員等が一堂に会し、グループ討議等を行う「美術館を活用した鑑賞教育の充実に資するための指導者研修」を国立美術館の研究員の研究成果と協働により実施する。

あわせて、法人ホームページでの実施概要及び実施報告の掲載を通じ幅広い層への広報に努める。

期間：平成27年8月3日（月）～4日（火）

会場：東京国立近代美術館、国立新美術館

募集人員：約100名

ウ 「美術館を活用した鑑賞教育の充実に資するための指導者研修」10年目を記念し、この10年間の美術館と学校が連携して行う鑑賞教育について振り返るとともに、今後の目標と課題を考える「10周年記念シンポジウム」を8月2日に実施する。

エ イの研修について教員免許更新講習として実施する。

(6) 美術館活動を担う人材の育成に資するようインターンシップ等の事業を次のとおり実施する。

ア 各館においてインターンシップ制度を実施する。

イ 東京国立近代美術館工芸館及びフィルムセンターにおいて、大学生の学芸員資格取得のための博物館実習を実施する。

ウ 国立西洋美術館において、大学院（東京大学大学院人文社会系研究科）と連携して美術館運営に関する教育を行う。

エ 国立新美術館において、近隣の政策研究大学院大学との連携の一環として、学生を対象とした展覧会等に関するガイダンスを実施し、良質な芸術作品に触れる鑑賞機会を積極的に提供する。

(7) 公私立美術館の学芸担当職員を対象としたキュレーター研修を実施し、その専門的知識及び技術の普及向上を図る。

研修希望者の募集に際しては、アンケート調査の結果を踏まえ、前年度と同様に研修を受け入れる国立美術館各館の展覧会概要及び受入れ可能な研修分野の情報を提示し9月に公募を開始する。

(8)-1 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、我が国の映画文化振興の中核的機関として次のとおり実施する。

ア 国内外で実施される各種映画祭や大学等の映画・映像に関する研究会等に協力する。

イ 「東京国立近代美術館フィルムセンター・大学等連携事業」の一環として、国立美術館キャンパスメンバーズ（東京国立近代美術館利用校）とともに、フィルムセンターの所蔵映画フィルムと施設を利用した講義等を実施する。

ウ 文化庁が実施する映画関連の事業に、施設の提供等で協力する。

エ 文化庁が実施する「日本映画情報システム」事業に協力する。

オ 相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構との文化事業等協力協定に基づき、資源及び情報等を活用し、文化事業を連携・協力して行う。

カ 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）会議に研究員等が出席し、シンポジウム等で発表を行う。

キ 全国各地で保存されている映画関連資料に関する情報を収集し、映画資料を所蔵する機関との連携を図る。

(8)-2 東京国立近代美術館フィルムセンターでは、より機動的かつ柔軟な運営を行うため、国立美術館内における独立した一館となることを含む様々な独立の可能性を探るべく、その機能拡充について、検討を行う。

4 運営委員会及び外部評価委員会の指摘等を館長等会議等において検討し、法人運営・事業等に反映させる。

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 一般管理費等の削減

業務運営の一層の効率化を進めるため、次のような措置を講ずる。

(1) 情報通信技術を活用した業務の効率化

国立美術館 5 館の情報システムネットワークの一元化を基盤として、引き続き TV 会議システム、グループウェア等の活用による効率化を進める。VPN バックアップ回線を増強するなどバックアップ・インフラの増強に努める。

所蔵作品情報の公開の円滑化を図るため各館のローカルシステムと独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムとの効率的オンライン化の検討を進める。

(2) 「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づく中長期計画に沿って、エネルギー使用量の削減に努める。

(3) リサイクルを推進し、廃棄物の排出量の削減に努める。

2 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数の抑制を図り、平成 27 年度において対年齢・地域・学歴勘案の指数が 100 以下となるように引き続き取り組むとともに、対年齢勘案の指数についても 100 程度となるように努め、その結果について検証を行い、あわせて検証結果や取組状況を公表する。

また、平成 27 年度においてもこれまでの人件費改革の取組の効果が活きるよう、より一層の組織の見直し等に努める。

3 契約の点検・見直し

(1) 国立美術館契約監視委員会を 1 回程度開催し、随意契約及び一般競争入札について点検、見直しを行う。その結果も踏まえ、一般競争入札及び企画競争・公募による競争性のある契約方式及び契約の包括化を推進する。

(2) ミュージアムショップについては、国立西洋美術館及び国立国際美術館は平成 23 年度に、京都国立近代美術館は平成 24 年度に企画競争により決定した業者による運営を継続して行う。

また、その他企画競争の導入等の指摘を受けた施設内店舗の賃貸については、快適な観覧環境の提供及び入館者サービスの充実に留意した上で、より一層の観覧環境の向上と効率化のため、企画競争等の導入を検討し、実施可能なところから順次、導入に向けた準備を行う。

4 保有資産の有効利用

- (1) 施設の有効利用のため、引き続き外部貸出による講堂等の利用率の向上及び閉館時等におけるエントランスロビー等の活用を図る。
- (2) 引き続き理事長裁量経費を計上し、理事長がリーダーシップを発揮できる環境を整備する。外部の有識者による運営委員会に対し国立美術館の管理運営に関して諮問を行い、審議結果を運営管理に反映させるなど内部統制の充実を図る。
- (3) 外部評価委員会を1回以上開催し、年度ごとに業務の実績に関する評価を組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、結果を「国立美術館外部評価報告書」として法人ホームページで公表する。
- (4) 国立美術館が安定してその情報コンテンツを国民に提供できるように情報管理の安全性の向上を図るとともに、コンピュータウィルスに関連する情報を職員に周知するなど、情報セキュリティへの意識向上に継続して努める。
また、いわゆる情報セキュリティポリシーに当たる「国立美術館情報資産安全対策基本方針」、「国立美術館情報資産安全管理規則」を踏まえ、安全管理のための実施細則の策定を進める。

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

- 1 運営費交付金の逡減が深刻化する中で、各館ごとに事情が異なるものの、自己収入予算の達成がしだいに困難となってきたことから、引き続き外部資金等の確保に努める。
- 2 予算（年度計画の予算）
別紙のとおり。
- 3 収支計画
別紙のとおり。
- 4 資金計画
別紙のとおり。

IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 施設・設備に関する計画

(1) 施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。

平成 25 年度補正, 平成 26 年度補正予算及び平成 27 年度予算措置に基づき、以下の施設・設備の整備等を進める。

(平成 25 年度補正予算)

【未定稿：予算繰越承認がなかった場合は削除】

ア 国立西洋美術館本館熱源機器設備等改修工事等

(平成 26 年度補正予算)

【未定稿：予算繰越承認がなかった場合は削除】

ア 東京国立近代美術館本館自家用発電設備更新工事

イ 東京国立近代美術館本館ハロン消火設備更新工事

ウ 東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館直流電源装置更新工事

エ 国立新美術館還水配管更新工事

(平成 27 年度予算)

ア 東京国立近代美術館本館空調・熱源用自動制御機器更新

イ 京都国立近代美術館館内鑑賞改善工事

ウ 国立西洋美術館本館建物改修工事

エ 国立西洋美術館監視カメラ装置等更新工事

(2) 国立新美術館の用地（未購入の土地）について、施設・設備に関する計画に基づき、予算措置に応じて購入を進める。

2 人事に関する計画

(1) 方針

① 職員の意識向上を図るため、次の職員研修を実施する。

ア 新規採用者研修

イ 接遇研修

ウ メンタルヘルスケアに関連する研修

② 外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。特に研究職職員への研修機会の増大に努める。

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進す

る。また、引き続き平成23年度に導入した任期付研究員及びアソシエイトフェロー制度のより一層の活用を図る。

3 積立金の使途

前中期目標期間の積立金のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、当期に繰り越された経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。

4 その他

「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」（平成25年12月24日閣議決定）に基づき、業務運営に関して様々な工夫・努力を行う。

2 予算(年度計画の予算)

平成27年度予算

(単位:百万円)

区 分	金 額
収 入	
運営費交付金	7,471
展示事業等収入	1,106
施設整備費補助金	3,505
計	12,082
支 出	
運営事業費	8,577
管理部門経費	1,305
うち人件費	301
うち一般管理費	1,004
事業部門経費	7,272
うち人件費	801
うち展示事業費	5,292
うち調査研究事業費	178
うち教育普及事業費	1,001
施設整備費	3,505
計	12,082

3 収支計画

平成27年度収支計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
費用の部	5,327
經常経費	5,327
管理部門経費	1,281
うち人件費	301
うち一般管理費	980
事業部門経費	3,883
うち人件費	801
うち展示事業費	1,925
うち調査研究事業費	176
うち教育普及事業費	981
減価償却費	163
収益の部	5,327
運営費交付金収益	4,058
展示事業等の収入	1,106
資産見返運営費交付金戻入	148
資産見返寄附金戻入	3
資産見返物品受贈額戻入	12

4 資金計画

平成27年度資金計画

(単位:百万円)

区 分	金 額
資金支出	12,082
業務活動による支出	8,444
投資活動による支出	3,638
資金収入	12,082
業務活動による収入	8,577
運営費交付金による収入	7,471
展示事業等による収入	1,106
投資活動による収入	3,505
施設整備費補助金による収入	3,505

別表1 平成27年度 所蔵作品展・企画展 計画

目標入館者数 全館合計 2,592,900人

所蔵作品展(展示) 670,500人

企画展(企画上映) 1,922,400人

(東京国立近代美術館)

<本館>

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)	会場
所蔵 作品展	MOMATコレクション (「何かがおこってるⅢ」、「地震のあとで:東北を思うⅣ」他特集およびコレクションによる小企画含む)	—	4回展示替え	291	140,000	本館所蔵 品ギャラリー
企画展	生誕110年 片岡球子展	日本経済新聞社	4/7(火) ~ 5/17(日)	37	75,000	本館企画 展ギャラリー
	No Museum, No Life? —これからの美術館事典 国立美術館コレクションによる展覧会	主催 国立美術館	6/16(火) ~ 9/13(日)	78	45,000	〃
	映像展(仮称)	—	10/6(火) ~ 12/13(日)	60	15,000	〃
	恩地孝四郎展	—	1/13(水) ~ 2/28(日)	41	30,000	〃
	安田鞞彦展 ※1	朝日新聞社	3/23(水) ~ 5/15(日)	9	17,000	〃
	企画展計				225	182,000
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					322,000	

※ 通算の開催日数は50日間、目標入場者数は99,000人

<工芸館>

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)	会場
所蔵 作品展	近代工芸の名品 近代工芸と茶(仮称) こども+おとな工芸館 近代日本の工芸(仮称)	—	4回展示替え	182	35,000	工芸館
企画展	中村ミナトのジュエリー:四角・球・線・面 ※1	—	2/24(火) ~ 4/19(日)	18	3,500	〃
	栗木達介展(仮称)	—	10/8(木) ~ 12/13(日)	58	9,000	〃
	芹沢銈介の造形(仮称) ※2	—	3/5(土) ~ 5/8(日)	24	5,000	〃
	大阪万博1970 デザインプロジェクト ※3	—	3/20(金) ~ 5/17(日)	43	20,000	本館ギャ ラリー4
	ようこそ日本・アジアへ—1920-30年代のツーリズムとオリエンタル・イメージ(仮称)	—	1/9(土) ~ 2/28(日)	44	12,000	本館ギャ ラリー4
企画展計				187	49,500	
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					84,500	

※1 通算の開催日数は49日間、目標入館者数は8,500人。

※2 通算の開催日数は59日間、目標入館者数は12,000人。

※3 通算の開催日数は55日間、目標入館者数は25,000人。

<本館>・<工芸館> 合計 406,500人

所蔵作品展 175,000人

企画展 231,500人

<フィルムセンター>

	上映会・展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)	会場
上映会	日本映画史横断⑥ 東映時代劇の世界 Part2	—	4/7 (火) ~ 5/24 (日)	42	12,500	大ホール
	EUフィルムデーズ2015	駐日欧州連合代表部およびEU加盟国大使館・文化機関	5/29 (金) ~ 6/21 (日)	21	9,000	大ホール
	特集・逝ける映画人を偲んで 2013-2014	—	6/23 (火) ~ 9/6 (日)	60	18,500	大ホール
	第37回PFF	PFFパートナーズ、公益財団法人ユニジャパン	9/12 (土) ~ 9/24 (木)	11	4,000	大ホール (一部小ホール)
	映画俳優 志村喬	—	9/26 (土) ~ 11/15 (日)	10	2,500	大ホール
	シネマの冒険 闇と音楽 2015	—	10/6 (火) ~ 10/11 (日)	6	1,700	大ホール
	生誕100年 没後30年 オーソン・ウェルズ特集(仮称)	東京国際映画祭、モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)、株式会社日本国際映画著作権協会	10/23 (金) ~ 11/8 (日)	15	9,000	大ホール
	日韓国交正常化50周年 韓国映画特集(仮称)	文化庁	11/21 (土) ~ 12/26 (土)	31	4,500	大ホール
	映画監督 三隅研次	—	1/5 (火) ~ 3/13 (日)	60	18,500	大ホール
	自選シリーズ 現代日本の映画監督4(仮称)	—	3/15 (火) ~ 3/27 (日)	12	3,500	大ホール
	京橋映画小劇場No.30 アンコール特集	—	5/8 (金) ~ 5/24 (日)	9	1,800	小ホール
	京橋映画小劇場No.31 映画の教室2015	—	8/21 (金) ~ 9/6 (日)	9	1,600	小ホール
	キューバ映画特集(仮称)	—	1/16 (土) ~ 2/28 (日)	14	1,800	小ホール
	上映会計				300	88,900
展覧会	シネマブックの秘かな愉しみ	—	4/14 (火) ~ 8/2 (日)	93	6,000	
	生誕110周年 映画俳優 志村喬	—	8/18 (火) ~ 12/23 (水)	89	4,000	
	キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより	京都国立近代美術館	1/7 (木) ~ 3/27 (日)	70	5,000	
	展覧会計				252	15,000
上映会 ・ 展覧会 合計					103,900	

(京都国立近代美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
所蔵 作品展	コレクション展 「近代の美術・工芸・写真」	—	5回展示替え	267	106,500
企画展	現代美術のハードコアはじつは世界 の宝である展 ヤゲオ財団コレ クションより ※1	東京国立近代美 術館、ヤゲオ財 団	3/31 (火) ~ 5/31 (日)	54	20,000
	ポスターにみる ミュージカル映画の世界 ※2	東京国立近代美 術館フィルムセ ンター	6/6 (土) ~ 8/16 (日)	62	(40,000)
	ユネスコ無形文化遺産登録記念 北大路魯山人の美 和食の天才	日本経済新聞 社、NHK京都 放送局、NHK プラネット近 畿、京都新聞	6/19 (金) ~ 8/16 (日)	51	60,000
	栗木達介展 (仮称)	—	8/28 (金) ~ 9/27 (日)	28	8,000
	琳派400年記念 「琳派イメージ」展 (仮称)	毎日新聞社、M B S、京都新聞	10/9 (金) ~ 11/23 (月)	40	30,000
	志村ふくみ展 (仮称)	—	2/2 (火) ~ 3/21 (月)	43	25,000
	企画展計				216
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					249,500

※1 通算の開催日数は55日間、目標入館者数は20,000人。

※2 コレクション・ギャラリーで開催する企画展のため、合計には計上しない。

(国立西洋美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
所蔵 作品展	西洋美術館コレクション	—	3回展示替え	271	310,000
企画展	グエルチーノ展 よみがえるバ ロックの画家 ※1	TBSテレビ	3/3 (火) ~ 5/31 (日)	55	60,000
	ボルドー展 —美と陶酔の都へ—	TBSテレビ	6/23 (火) ~ 9/23 (水)	82	180,000
	黄金伝説展	東京新聞、TBSテ レビ	10/16 (金) ~ 1/11 (月)	72	180,000
	日伊修好通商条約150年記念 カラヴァッジョ展 (仮称) ※2	NHK、NHKプロ モーション	3/1 (火) ~ 6/12 (日)	27	150,000
	企画展計				236
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					880,000

※1 通算の開催日数は81日間、目標入館者数は88,000人。

※2 通算の開催日数は91日間、目標入館者数は500,000人。

(国立国際美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
所蔵 作品展	コレクション展	—	1回展示替え	125	64,000
企画展	高松次郎 制作の軌跡	—	4/7 (火) ~ 7/5 (日)	79	21,000
	他人の時間	東京都現代美術館、クイーンズランド州立美術館 現代美術館、シンガポール美術館、国際交流基金アジアセンター	7/25 (土) ~ 9/23 (水)	53	14,000
	ヴォルフガング・ティルマンス (仮称)	—	7/25 (土) ~ 9/23 (水)	53	31,000
	クレオパトラとエジプトの王妃展	NHK大阪放送局、NHKプラネット近畿、朝日新聞社	10/10 (土) ~ 12/27 (日)	68	116,000
	現代の人間像 (仮称)		1/16 (土) 3/21 (月)	57	16,000
	竹岡雄二 台座から空間へ (仮称)	—	1/16 (土) ~ 3/21 (月)	57	14,000
	企画展計				367
所蔵作品展 ・ 企画展 合計					276,000

(国立新美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)	目標 入館者数 (年度内)
企画展	ルーヴル美術館展 日常を描く—風俗画にみるヨーロッパ絵画の真髄 ※1	日本テレビ放送網	2/21 (土) ~ 6/1 (月)	56	166,000
	マグリット展 ※2	読売新聞社	3/25 (水) ~ 6/29 (月)	80	158,000
	ニッポンのマンガ*アニメ*ゲーム	—	6/24 (水) ~ 8/31 (月)	60	102,000
	アーティスト・ファイル 2015 隣の部屋——日本と韓国の作家たち	—	7/29 (水) ~ 10/12 (月)	67	36,000
	ニキ・ド・サンファル展	NHK、NHKプロモーション	9/18 (金) ~ 12/14 (月)	77	78,000
	DOMANI・明日展	文化庁	12月 ~ 1月	—	10,000
	平成27年度[第19回]文化庁メディア芸術祭	文化庁	2月 ~ 2月	—	45,000
	大原美術館展 (仮称) ※3	NHKプロモーション	1/20 (水) ~ 4/4 (月)	62	68,000
	三宅一生展 (仮称) ※4	—	3/16 (水) ~ 6/13 (月)	14	14,000
	企画展計				416

※1 通算の開催日数は89日間、目標入館者数は263,000人。

※2 通算の開催日数は86日間、目標入館者数は170,000人。

※3 通算の開催日数は66日間、目標入館者数は72,000人。

※4 通算の開催日数は78日間、目標入館者数は76,000人。

別表2 各館の平成27年度調査研究

(東京国立近代美術館)

<本館>

ア 展覧会開催のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
片岡球子展	北海道立近代美術館、愛知県美術館
5館合同展	独法国立美術館全館
映像展	—
恩地孝四郎展	和歌山県立近代美術館
安田鞞彦展	—
「MOMATコレクション 特集：何かがおこってるⅢ（仮称）」	—
「MOMATコレクション 特集：東北を思うⅤ（仮称）」	—
「MOMATコレクション 特集：藤田嗣治全点展示（仮称）」	—
「MOMATコレクション 特集：美術と建築（仮称）」	—
「コレクションによる小企画 写真における事物（仮称）」	—
「コレクションによる小企画 手袋の裏がえし（仮称）」	—
「MOMATコレクション」における多様な情報提供	—

イ 教育普及その他の美術館活動のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
国立美術館の情報資源と国立情報学研究所によるWebcatPlus、文化庁文化遺産オンライン等に掲載の文化情報資源を、「想—IMAGINE」において連携して検索・閲覧できるシステムの公開	—
国立情報学研究所との共同による海外主要美術図書館横断検索システム(artlibraries.net)と国立美術館図書館OPACとの連携可能インターフェース	—
作品の来歴、展覧会歴、文献歴など歴史的情報をもつ所蔵作品データの拡充を図り、併せて国立美術館所蔵作品総合目録での公開を目指す	—
「海外日本美術資料専門家（司書）の招へい・研修・交流事業 2015」（略称：JALプロジェクト）	—

<工芸館>

ア 展覧会開催のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
大阪万博のデザイン	—
栗木達介	京都国立近代美術館
芹沢銈介	—
20世紀前半の日本と中国・台湾・韓国のデザイン／工芸の交流	科学研究費補助金、2年目
近代工芸と茶の湯の器	—
近代工芸の歴史と展開	射水市新湊博物館、宮崎県立美術館

イ 教育普及その他の美術館活動のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
「20世紀前半の日本と中国・台湾・韓国とのデザイン/工芸の交流」	科学研究費補助金、2年目
児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進	東京都図画工作研究会
児童・生徒を対象とする工芸素材と技法の体験及び鑑賞教育の推進	—

<フィルムセンター>

ア 収集・保存のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAF) 会員、その他同種機関、現像所等からの情報に基づく、未発見の日本映画フィルムの所在調査	—
文化庁との共同事業による「近代歴史資料調査」の結果に基づき、新たに残存が確認された映画フィルムの詳細調査	—
可燃性フィルムを含むフィルム映画及びデジタル映画の長期保管・保存・変換・登録、アナログ及びデジタル技術を活用した復元、及び映写	FIAF会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、美術館・博物館、映像機器メーカー、現像所等
映画におけるデジタル保存と活用	FIAF会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、IT関連研究教育機関、映画製作会社、映画関連団体、放送局、映像機器メーカー、現像所、IT関連会社等
不明となっている所蔵作品の権利帰属等メタデータ	映画製作会社等諸団体
映画の撮影及び現像時における技術データ	映画製作会社、関連職能組合、現像所等
映画資料を整理するとともに、その画像をデジタル化し、活用することを目的とする事業	—

イ 上映会、展覧会及び教育普及事業のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
東映時代劇	—
ヨーロッパ諸国の映画	駐日欧州連合代表部およびEU加盟国大使館・文化機関
近年逝去した映画人	—
日本の自主映画	PFFパートナーズ、公益財団法人ユニジャパン
無声映画	—
映画監督オーソン・ウェルズ	東京国際映画祭、モーション・ピクチャー・アソシエーション
韓国映画史	文化庁
映画監督三隅研次	—
現代日本の映画監督	—
キューバ映画	—
映画をめぐる本と出版の歴史について	—
俳優志村喬	—

キューバの映画ポスター	京都国立近代美術館
-------------	-----------

(京都国立近代美術館)

ア 展覧会開催のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
現代美術の個人コレクションとコレクター～ヤゲオ財団コレクションを例に	ヤゲオ財団、東京国立近代美術館、名古屋市美術館、広島市現代美術館
ミュージカル映画とポスター	東京国立近代美術館フィルムセンター
北大路魯山人と和食	足立美術館、三井記念美術館
栗木達介と現代陶芸に関する研究	東京国立近代美術館工芸館
琳派イメージ	—
志村ふくみと民藝に関する研究	世田谷美術館、沖縄県立美術館・博物館
『マヴォ』とフロリアン・プムヘスル	—
ウィーン工房とリチ (Felice Rix-Ueno)	大阪新美術館建設準備室

イ 教育普及その他の美術館活動のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
「ベルリン工芸博物館開館時の展示方法一考一源泉としてのジオラマとグロピウス一族」	科学研究費補助金、3年目
「近代美術工芸における『凶案』と『凶案家』をめぐる基礎的研究」	科学研究費補助金、3年目
オーラルヒストリーによる1970年前後の前衛美術とその隣接領域	—
創造の為のアーカイブの実践的研究～言語・身体・イメージから～	—
日本における「美術」概念の再構築—語彙と理論にまたがる総合的研究	—

(国立西洋美術館)

ア 展覧会開催のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
グエルチーノ展 よみがえるバロックの画家	ボローニャ文化財・美術館特別監督局
ボルドー展 美と陶酔の都へ	ボルドー美術館、アキテーヌ博物館、ボルドー装飾芸術・デザイン美術館、CAPCボルドー現代美術館、ボルドー市立図書館、ボルドー市立公文書館、ワイン文明博物館(2016年に開館予定)、福岡市美術館
黄金伝説展	宮城県美術館、愛知県美術館
日伊修好通商条約150年記念カラヴァッジョ展(仮称)	—

イ 教育普及その他の美術館活動のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
旧松方コレクションを含む松方コレクション全体	—
中世末期から20 世紀初頭の西洋美術	—
所蔵版画作品	—
美術館教育	—
ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計	—
「17 世紀オランダ美術の東洋表象研究」	科学研究費補助金、4年目
「古代ローマ工芸美術の基礎的研究 ～テッラ・シギラタについて～」	科学研究費補助金、3年目
「前衛と古典主義：20世紀イタリア美術における美術館と複製媒体の諸機能に関する研究」	科学研究費補助金、3年目
「エライザ法を用いた膠着材同定の実現のための検討」	科学研究費補助金、4年目(昨年度より延長)

(国立国際美術館)

ア 展覧会開催のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
所蔵作品	—
現代美術の動向	—
高松次郎	東京国立近代美術館
ヴォルフガング・ティルマンス	—
竹岡雄二	埼玉県立近代美術館、遠山記念館
プレイ	—
森村泰昌	—

イ 教育普及その他の美術館活動のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
美術館教育	—
アジア、オセアニアの現代美術並びに美術館運営	国際交流基金、東京都現代美術館、クイーンズランド州立美術館、シンガポール美術館

(国立新美術館)

ア 展覧会開催のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
日本の現代美術の動向	—

海外の現代美術の動向	—
日本及び韓国の若手現代美術作家	韓国国立現代美術館
日本のメディア・アート	兵庫県立美術館
16世紀から19世紀までのヨーロッパにおける風俗画	ルーヴル美術館、京都市美術館
ルネ・マグリット	ベルギー王立美術館、京都市美術館
ニキ・ド・サンファルの芸術	グランパレ美術館
大原美術館のコレクション形成史とその理念	大原美術館
三宅一生の活動の軌跡とその展開	公益財団法人 三宅一生デザイン文化財団

イ 教育普及その他の美術館活動のための調査研究

調査研究内容	連携研究機関等
美術館の教育普及事業（ワークショップ、鑑賞ガイド等）	—
日本の近・現代美術資料	—
戦後の日本の美術館等における展覧会データの収集及び公開	—
美術情報の収集・提供システム	—
美術館におけるデジタル・アーカイブの構築	—